

〇〇からの卒業



足利学校からの卒業

主人公は、北条早雲によって才能を見出された少年小太郎。小太郎は早雲の命により、早雲の孫千代丸の軍配者となるべく足利学校に入学し、学友たちと切磋琢磨する。足利学校は自学自習が原則だが、講義もあり「漢籍」、「兵書・医書」、「易経」と三段階に分かれていて、「易経」まで学ぶと卒業となる。そして、卒業した者の中から優秀な者が「図上演習」に進むことができる。

歳月が経ち、その「図上演習」まで進んだ小太郎に帰国命令が出て、ついに軍配者見習いとして隣国との合戦に出陣する。隣国の軍配者は足利学校の学友、曾我冬之助。戦場において、二人の知略が激突する。軍配者を育てる足利学校に光を当てた新鮮な歴史小説で、歴史を知らない人でも楽しむことができる。余談だが、時々登場する千代丸がキュートでおススメ。

※戦をする日時や方角を占う陰陽師と作戦を立案する軍師の二つの能力を併せ持つ者

風雲ふわふわ丸
チョイス!



思い出からの卒業

〈好き〉とはちがう、ただの〈仲良し〉でもない、でもお互い特別な存在だったシンとアヤ。それぞれ、ミュージシャンとマンガ家を目指してはいるものの、どこかそれが“夢”であると思っ

てしまっている中3の2人は、相手に胸を張って逢える存在になるために、卒業式の日、ある約束をします。それは、夢を叶えているであろう10年後の未来に、再び会うこと…。

ジーク信玄
チョイス!



今の自分からの卒業

「卒業」というとありきたりなテーマですが、あさのあつこをはじめ、小路幸也、坂木司といった青春小説でおなじみの作家たちの手にかかる、家族やアイドルや地球人(?)、淡い恋心を抱く相手や思い出など、大切な何かにさようならを告げる“その時”を鮮やかに切り取った物語になります。その中でも「さようならの雪」と「おしゃれ奴隷」は、厄介者の家族への苦々

しい思いと、それでも家族であるが故に許さなければならぬ思いが交差する物語です。前者は切なく、後者はユーモラスに描かれていて、どちらもお薦めです。ダ・ヴィンチの短編集シリーズは、モノクロ写真を使った表紙が印象的ですが、特に今回は「旅立ち」を感じさせる清々しいショットが、新たな一歩を踏み出す主人公たちを代弁しています。

愛燦々
チョイス!



会社という呪縛からの卒業

会社を辞めたいって思う人は、ごまんといえるでしょうが、この不景気の時代、本当に辞めてしまうのは、とても勇気のいることでしょう。それでも、なお“辞める”と決意したのなら、ちょっとこの本を手にとってもらいたいです。本書は「会社は裏切るものだ」から始まって、「辞める決心・ケジ

「会社を辞めるのは怖くない」
江上剛著
幻冬舎
366p
篠崎ほか所蔵



「美晴さんランナウェイ」
山本幸久著
集英社
Fヤ
篠崎ほか所蔵

モラトリアムからの卒業

美晴さんはすごい人です。母親の葬式から義理の姉が用意した見合いの席まで、嫌なことからはとにかく逃げ回ります。それでもまったく悪びれず、手土産を持って何食わぬ顔で帰ってくる美晴さん。語り手である姪の世字子(ようこ)とその一家を振り回すとても勝手な人ですが、どこか憎めないという厄介な人物です。中盤、つ

メのつけ方」「退職のスタイル・プラン」と続いていき、最後は「江上流フリーター生活」で終わっております。新しい人生を送るための準備と心構えを、この本は教えてくれるでしょう。ところで「退職とは、会社という呪縛(中略)から、スカッと解放されるチャンス」と著者は言うのですが、まあ、やってみなければ分らないでしょう。

病弱亭弱々
チョイス!



いに怒りを爆発させた世字子は美晴さんを突き放します。「美晴さんはいつも逃げてばかりでずるい、許してやらない」と。そのとき美晴さんが返した、意外な言葉とは…。

まろにえ船長
チョイス!



いつも傍にいて、もううんざりと思っていたのに、その人がいざ遠くへ行ってしまふときの切なさ。卒業“される”側が感じる晴れ晴れとした寂しさが、じわりと胸に染みこみます。

そのメロディに魅せられて♪

卒業ソングといえば、「高校三年生」「卒業写真」「いちご白書をもう一度」「思い出がいっぱい」「贈る言葉」…そしてもちろん「揚げば尊し」に「蛍の光」…若い世代は「YELL」でしょうか。それぞれの世代にそれぞれの卒業の歌がありますね。

「空も飛べるはず」 スピッツ

(「スピッツ サイクルヒット1991~1997」ほか所収 K1ス 中央ほか所蔵)

ドラマ「白線流し」を高校時代にリアルタイムで見ていた現在30代前半のみなさんは、この曲を思い出しませんか? この曲を聴くと、あの卒業式の後の不思議な感覚が今でも胸にこみあげてきます。あなたの心に残る思い出の卒業ソングは何ですか?

スタッフのセレクション! 第16回

「自己カウンセリングとアサーションのすすめ」

平木典子著 金子書房 請求記号:146ヒ 所蔵館:篠崎

著者の平木先生は学生時代の恩師でした。その時は、「家族心理学」の講義を受講したのですが、課外講座として、「アサーション・トレーニング」を開講していました。それは、私の人間関係の考え方に大きな影響を与えました。こちらで勤め始めてから、そんな先生の本を見つけ、懐かしくなり、手にとって見て、紹介してみようと思いました。

アサーションについては、それが語られるようになってから、随分たつので、ご存知の方も多いかとは思いますが、人との関わり方には、アグレッシブ(攻撃的)、非主張的、アサーティブ(適切な自己表現)の方法があります。それぞれが、どのようなことなのか、そして、自分はどのパターンが多いのかを認識することによって、より良い人間関係を築く助けにな

篠崎図書館で働くスタッフがほとんど個人的趣味で選んだおすすめ本を紹介します。今号は、Yさんが選んだ心理学の本です。

るかと思われま。著書は、「これから自分とうまくつき合って生きていきたいと思っている人」を対象に書かれています。そして「自分とつき合うことと自己表現(アサーション)の密接な関係について再考することで、自分とのつき合いをよりうまくする手だてを見直し、自己成長のチャンスを広げます」とあるように、自分のこと、人間関係のことについて、今一度考えてみたいと思っている方に読んでいただけたらと思います。

尚、アサーションについて、よりわかりやすい本としては、「図解自分の気持ちをきちんと伝える技術」(361ヒ 篠崎ほか所蔵)もありますので、よろしければご参照下さい。

〇〇からの卒業

書名	著者	出版社	請求記号	所蔵	
塙の中	刑務所 元刑務官だけが知る塙の向こうの世界	坂本敏夫	PHP研究所	326サ	篠崎ほか
人見知り	さようなら! 「人見知り」	麻生けんたろう	同文館出版	361ア	篠崎ほか
ゴミ箱部屋	片づけられない女のためのこんどこそ! 片づける技術	池田暁子	文藝春秋	597イ	篠崎ほか